



人権教育シリーズ⑥

市では人権教育の推進のため、さまざまな活動や啓発に取り組んでいます。ここでは、取り組みの内容や情報を定期的にお知らせしていきます。

恵楓園を通して～南ヶ丘小学校～

南ヶ丘小学校では、6年生の人権学習の中で恵楓園の学習をしています。これは、わたしたちの身の回りにおける差別のおかしさを自分たちの問題として受けとめ、人権意識を高めていく目的で取り組んでいます。わたしたちの身近な地で日本の歴史に残る悲しい出来事が起きていたのです。ハンセン病は治る病気として確認されても差別は残り続けました。子どもたちは恵楓園の歴史やハンセン病について、そして入所者の皆さんの恵楓園での暮らしや差別への怒り、願いなどを学習し、実際に恵楓園へ行き、自分たちで学習したことを確かめていきます。そして、火葬場跡や納骨堂などを回り、ふるさとに帰ることができなかった人たちの無念さを感じていき

ました。
また、恵楓園ボランティアガイドさんの説明を真剣な眼で聞く子どもたちの姿がありました。
「正しいことを知ること」が差別をなくす大切な一歩です。でもそれ以上に「知ってどうするのか」がさらに大切になってきます。子どもたちからは「恵楓園のことって、お父さんやお母さんたち知っているのかな?」「だんだん入所者の人が少なくなっているんだね。この後、恵楓園にいろんな人が住めるようになればいいのになあ。」そんなつぶやきがありました。そして、恵楓園で学んだ感想を、自分の暮らしと重ねて出し合っていました。

～子どもたちの感想より～

○納骨堂、高い壁、そして前亡くなった人を燃やしていたところへ行く途中、友だちが「なんか・・・心に突き刺さるような話だよね・・・。納骨堂は偽名のままの人や名前のない人の、そして元気な赤ちゃんも殺されて納骨堂の中に入っているんでしょ・・・。」とっていて、私も思いました。「うん。心に突き刺さる話だった。私たちが元気なのはほんとうに幸せだね。その子たちの分まで元気に過ごさないといけないね。」っていろいろ話しました。私は監禁室がすごく心に残っています。「ただ家族に会いたかっただけ」それだけなのにそこに入れられて・・・。実際にそこに入ってみると暗くて何も見えなくて・・・、そこに2週間くらいもいなくちゃいけないなんて。よく見るとそこに入っていた日数を数えるための印や文字が書いてありました。

○今日一番心に残ったことは、恵楓園入所者の方から健康な赤ちゃんが生まれても殺されていたと聞いて、びっくりしてとてもくやしい気持ちになりました。健康な赤ちゃんさえも殺されるなんてほんとうに差別はひどいと思います。いろんな学習をして、まずは自分から変えていかないといけないと改めて思いました。



恵楓園の納骨堂

次回は12月号に掲載予定です。

こうし 歴史発見!

第36回

合志市の今昔 その五 合志市上生 (旧西合志町大字上生)

上生は本市の西北部に位置し、北側を菊池市泗水町、西側を熊本市植木町と接しています。

今から、約1500年前の貞観元(859)年、当時の合志郡から山本郡という新しい郡が分離独立しました。当時の人口増加による措置と考えられています。このとき上生は合志郡を離れ山本郡の殖生郷に属しました。その後、寛永10(1633)年、約770年ぶりに合志郡に復帰しています。明治9(1876)年、上生村・城村・堀田村が合併して上生村となり、明治22(1889)年に他の四カ村と合併して西合志村大字上生となりました。

戸数は、寛永10年の人畜改帳には20戸、石高生産高は626石と記録されています。明治16(1883)年の調べでは86戸に259人が住んでおり、職業は農業が圧倒的に62戸、他には大工職4戸、木挽職1戸、畳刺職1戸、傘張職1戸、竹細工職1戸、屋根算職2戸、桶屋1戸、小売商5戸、雑職として真営業1戸、牛馬売買職2戸、水車職2戸の記載があります。また、牝馬が54頭、牡馬が5頭飼育されています。生産物では、明治15(1882)年の調査

で農作物では米437石、大豆150石、小豆20石、小麦40石、裸麦130石、大麦15石、蕎麦120石、粟56石、甘藷(さつまいも)6万斤、蘿蔔(大根)2万斤、茶3百斤、柿千斤、芋(さといも)800斤、鶏卵千個のほかに、畳50枚、傘150本、宮(箱)150個の生産がありました。

西南戦争後、山本郡古閑村(現熊本市植木町)と上生村は、共立の上古小学校を設置しますが、明治19(1886)年これを廃し、上生村の児童は野々島学校(現西合志中央小学校)に通うようになりました。その後、明治26(1893)年に上生分教場を上生菅原神社そばに設置し、昭和5(1930)年の廃校まで当地域の小学生が通学していました。

文化財には、市指定の笹塚古墳(笹塚のほか、古墳時代の城敷古墳(城敷)、城塚遺跡(城、積雪の板碑、積雪、縄文時代)、中世の上生上ノ原遺跡(上原)、弥生時代の北野遺跡(北野)、歴史上初めて記された合志郡の人物王生諸石(注)の館跡ともいわれる城遺跡(城敷)、合志二十五天神の二十三番上生菅原神社などがあります。(注:日本書記)の696年の項に「肥後国皮石郡壬生諸石」とある) 平成21年11月末には、93世帯、300人となり



上生菅原神社

学校紹介

平成22年8月1日現在
～南ヶ丘小学校～
児童数…669人 職員数…38人
校長…前田 弘



本校は幾久富に位置し、児童数669人、職員数38人で今後も児童数の微増が予想されています。南ヶ丘小の子どもたちがみんなが夢と希望を持って、学校に行くのが楽しいと思えるように全職員で取り組んでいきたいと思えます。そのために「明るく楽しい学校」「落ち着いた学校」「地域や保護者から信頼される学校」を目指して頑張っています。

人権の花運動伝達式

この運動は、法務省と人権擁護局の主に小学生を対象とした啓発運動です。本年度、南ヶ丘小は取り組み校として、配布された花の種子、球根などを児童が協力しながら育成しています。この活動を通して、協力・感謝することの大切さを学ぶとともに情操を豊かにし、やさしい思いやりの心を体得させ、人権思想をはぐくむことを目的としています。また、本校では保護者や地域の老人会とも連携し、協力を仰ぎながら活動を進めています。現在、朝顔・ヒマワリ・メランポジウム・サルビア・マリー



ゴールドなどの花を育てています。秋にはたくさんの子が取れますが、これを地域に配布したり、風船につけて飛ばしたりして、さらにこの活動を広げていきます。

読みの力を高める授業の創造

平成21・22年度は市の指定を受けて学力向上、特に「読みの力を深める学習」の研究を行なっています。子どもたち同士が学習の中で意見の交換をしたり、聞き合ったりするなど、自分の思いを伝え合う場面を設定し、コミュニケーション能力を育てながら読みを深め、読解力も高めていくことがねらいです。授業の改善だけでなく、群読を取り入れた「山びこ集会」の開催や、全校での会話力向上の練習「スキルアップスピーチタイム」、掲示物の充実など、思いや情報の伝え合いの力を学校生活全般を通して育成していこうと考えています。

読書活動の充実

本校では、保護者とも連携した読書活動の取り組みが盛んです。毎月15日を「家庭読書の日」とし、「ノーテレビ・ノーゲーム」で家族ぐるみでの読書活動の推進を図っています。この日は「家庭読書カード」を家庭に配布し、感想などを書いてもらっていますが、読書活動が多くのご家庭で定着してきた様子がうかがえます。また、保護者ボランティアによる朝の読み

聞かせ活動や、年に一度の人形劇舞台まで設置した大がかりな「童話会」では、保護者や職員による朗読・読み聞かせを子どもたちはとても楽しみにしています。図書館の設備・運営の充実と合わせて、平成21年度全国図書館コンクールで「全国図書館協議会長賞」を受賞しています。

児童と全職員が一丸となって取り組もう

掃除に力を入れて学校全体で取り組んでいます。生徒指導・校内放送・日課の変更などさまざまな工夫をしながら、職員・児童と一緒に頑張っています。